

既存IBM AS/400で作り込まれた「営放システム」をオープン化、SVFで開発ボリュームを抑え、業務帳票の電子化を拡張。



IBM System/34 で始まったテレビ東京のシステム化

テレビ東京は、1964年(昭和39年)に、日本科学技術振興財団が運営する教育・教養番組を専門とする放送局として開局。当初、関東地区をエリアに放送開始した東京12チャンネル(1981年、テレビ東京に改名)は現在、首都圏のみならず、大阪、名古屋、岡山、札幌、福岡の主要大都市圏を系列局で結ぶTXNネットワーク6局体制により、日本全国の67.7%にあたる約3333万世帯をカバーしている。

コンピュータ化に関しては、1970年(昭和45年)日本経済新聞社のコンピュータを使用してプログラムの自社開発を目的に電算部門が誕生。以後、経理システム、営業情報システムなどの開発を進め、1981年(昭和56年)全システムの自社運用を達成。コンピュータ機器は1978年(昭和53年)IBM System/34を導入し、以後、System/38、1989年(平成元年)にはIBMのAS/400を導入した。

1987年(昭和62年)電算部門を独立した関連会社とし、(株)テレビ東京システムが設立され、テレビ東京のみならず、TXN系列ネットワークのオンラインシステムへの全面的なサポートを行っている。

地上デジタル放送のスタートにより基幹システムを刷新

テレビ局にとっての基幹システムとは、日別・時間帯別に放送する番組を管理する編成システム、日別・時間帯別に放送するCMの受注や送出順を管理する営業システム、それらの情報を基に放送機器を制御するために必要な情報を設定するキューシートシステム等で構成されている。これらのシステムを総称して営放(営業放送)システムと呼んでいる。テレビ東京の営放システムは、当時のIBMのエンタープライズサーバである「IBM AS/400」のRPGをベースにテレビ東京システムが開発。2003年12月1日よりスタートした地上デジタル放送の開始に合わせ、システムが刷新された。

「放送のデジタル化に伴うシステムの刷新を約3年前より着手しました。AS/400のRPGで開発されたシステムを約20年間、拡張しながら使ってきたのですが、今回のデジタル放送開始を機に、これまでのアナログ波放送とデジタル波放送の両方を1つのシステムで支援できるよう、Web化をはかりました。(テレビ東京システム 業務部 副部長 仲摩一幸氏)

新しい営放システムは、特定地域でスタートした地上デジタル放送が開始されて3ヶ月後の2004年3月より稼働。このシステムの開発には、外部のスタッフも合わせ、ピーク時100名以上が関わった。RPGのWeb化には「LANSA for the Web(株)エス・イー・ラボ 取扱製品)」を使用し8割を移行、残り2割はJavaで作り込んだ。

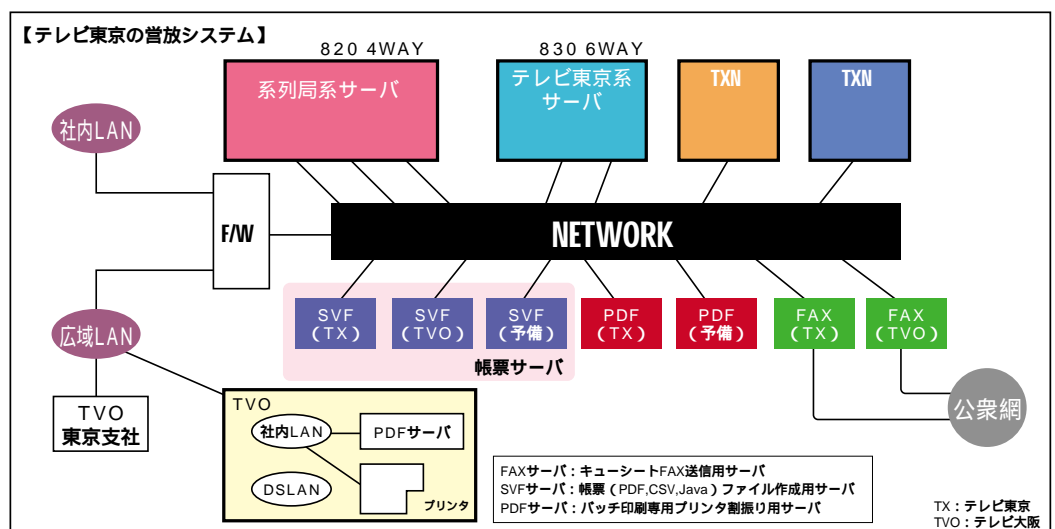
INTERVIEW

仲摩 一幸氏(写真上)
 株式会社テレビ東京システム
 業務部 副部長

亀川 悦勇氏(写真下)
 業務部 主任

株式会社テレビ東京システム プロフィール

所在地：東京都港区
 事業概要：コンピュータソフトウェアの企画・開発管理およびその他のコンサルティングに関する業務



USERS REPORT

株式会社テレビ東京システム

INTVIEW 株式会社テレビ東京システム 業務部 副部長 仲摩 一幸氏 / 業務部 主任 亀川 悦勇氏

番組制作を支える帳票システム

テレビ番組の制作および放送には、プリンタで出力された紙の帳票が不可欠であり、例えば、テレビ番組の台本ともいえるキューシートには、何時何分にとどのコーナーを放送するか、どのCMを入れるかなど、番組進行に必要なすべての情報が印刷されている。すべての放送スタッフは、このキューシートに従って番組を進行していく。「番組制作や放送内容のチェックでは、必ず紙の帳票を出力し、複数のスタッフが確認します。こうしたチェックは、PCのディスプレイ上では難しくやはり紙ベースでの作業です。一日40~50の番組があり、番組を放送し最終的に収支を確認するまでの業務全体で言えば、1番組に対して100近くのシートが使用されていると思います。」(仲摩氏)

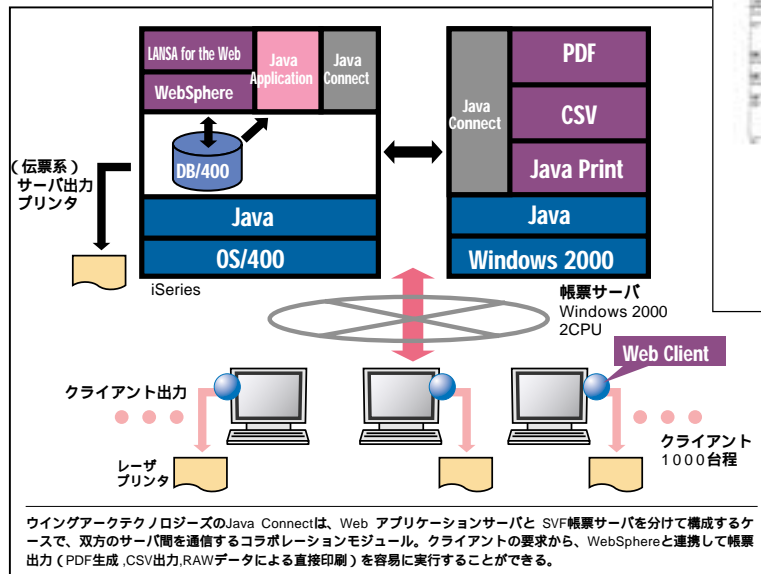
多数のスタッフがかかわるため、帳票に対する要求もさまざま。「テレビ局の仕事に限ったことではないでしょうが、担当者が変わると帳票を変更してほしいという要望がシステム担当者が上がってきます。必要な情報は印字されているのですが、並び順を変えてほしいとか、印字場所を変えてほしい、出力先を変えてほしいなどの要望があります」(テレビ東京システム 業務部 主任 亀川氏)

放送局にとっての基幹システムである営放システムでは、1000種近い帳票が存在する。しかし、Web化による新しい仕組みづくりでは、

多種多様な帳票を業務の用途に応じて使い分けた運用も可能だ。既存のRPGに頼らず、帳票ツールの良さを活かして拡張性を求めた。帳票ツール製品は比較検討したが、開発ボリュームを抑えることと、WebSphereとの実績、細かな帳票要件の変更を自前で行える環境の構築がポイントとなった。Super Visual Formadeの採用においては次のような点を評価している。

「Webの仕組みからのプリンタ出力はもちろん、PDFやCSVなどさまざまな形態に出力できる点、それらをIBM eServer iSeriesから利用できる仕組みがもてること、まだまだすべての帳票表現は満足できるものではありませんが、使い良さが際だっていました。SVFの操作講習を行ってもらったのですが、担当者は1回の講習会でもう簡単な帳票なら自分で直せるようになっていましたね。」(亀川氏)

IBM eServer iSeriesによって再構築された営放システムは、現在横展開されテレビ大阪のシステムも同様に稼働させている。長年の仕組みを硬直化させることなく、またこれまでの運用を変えることなく、オープン系のツールを利用して新しい運用の拡張を手にしたといえる。帳票がとくにボトルネックといわれるなかで、帳票出力のオープン化は第一フェーズを終えた。次の運用に向け、さらに業務が満足する要件を満たすためにSVFへの要望があがっている。



Super Visual Formadeで作成し、クライアント例での帳票出力を実現しているCM進行表、入力チェックリスト

ウイングアーク テクノロジーズ 株式会社
(旧 眞システム株式会社)
<http://www.wingarc.com/>

- [本社] 〒150-0044 東京都渋谷区円山町28-5 1st渋谷ビル
TEL:03-5962-7300(代) FAX:03-5962-7301
- [西日本] 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-8-17 大阪第一生命ビル11F
TEL:06-6225-7481 FAX:06-6225-7482
- [中部日本] 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-3-4 名古屋錦フロントタワー3F
TEL:052-218-9520 FAX:052-218-9521
- [開発元] 株式会社エフ・アイ・ティ

本カタログの情報は、2004年10月現在のものです。
IBM、DB2、eServer iSeries、WebSphereは、IBM Corporationの米国およびその他の国における商標です。
実際の製品と内容が異なる場合があります。本カタログに掲載される仕様およびデザインは、予告なしに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。